

報道関係者各位

## クマに対する県民への注意喚起について

春を迎え、行楽や山菜採りなどで山に入る方も増えていますが、この時期はクマが冬眠から覚めて活発に活動する時期でもあり、クマに遭遇する危険性が高まります。

今年も既に35件の目撃事例（4月20日時点）があるほか、過去には、山菜採りや溪流釣りに出かけ、クマと遭遇した県民が大怪我を負う事故も発生しています。

人身被害の防止に向け、下記を参考に、県民に注意を喚起してくださるよう御協力をお願いします。

### 記

- クマから見れば、森林は自分の領分。人は侵入者だということを忘れずに、周囲に十分注意してください。
- 音の出る物で、人の存在をクマに知らせるようにしてください。
- 子連れのクマに注意してください。
- 万一、クマに遭遇したら、背を向けずに、ゆっくり後退してください。
- 生ゴミなどを放置しないでください。
- 市街地周辺のやぶなどは刈り払ってください。

- ・ 行き慣れた山でも、クマから見れば、自分の領分だということを忘れないでください。冬眠から覚めたクマは、芽吹いた山菜類などを探して動き回ります。山菜を探すのに夢中で周囲への注意が散漫になると、突然クマと遭遇することになります。
- ・ クマも食べ物探しに夢中になり、人の接近に気がつかない場合があります。山などに出かけるときは、ラジオやクマ鈴、笛など、音の出る物を持って行きましょう。
- ・ 子連れの母グマは非常に神経質で危険です。絶対に近づかないでください。子グマを見たら、近くに母グマがいると思ってください。
- ・ 山菜採りなどで食べ残しやゴミを山に残してくるのは、クマを寄せつける大変危険な行為です。食べ物や食べ物の包み紙などのゴミは必ず持ち帰ってください。
- ・ クマは河川敷などの緑地に隠れて移動します。市街地周辺のやぶなどは刈り払い、クマの出没を防ぎましょう。

（参考）山形県内におけるクマによる人身被害件数（括弧書きは人数）

令和4年度 2件（2人）

令和5年度 5件（5人）

令和6年度 4件（4人）

※別添チラシを参照ください。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



（担当） 環境エネルギー部みどり自然課  
課長補佐(野生生物対策担当) 佐藤  
TEL：023-630-3042  
〔広報監〕 環境エネルギー部次長 高嶋